

目 次

第1章 I F 関数と VLOOKUP 関数	1
1-1 VLOOKUP 関数の概要	1
1-2 VLOOKUP 関数の「完全一致」検索	2
1-3 VLOOKUP 関数を挿入する	7
1-4 VLOOKUP 関数の「近似値」検索	16
1-5 「完全一致」検索と「近似値」検索のまとめ.....	22
1-6 I F 関数の概要.....	23
1-7 I F 関数.....	24
1-8 I F 関数を挿入する（関数を使わない場合）	28
1-9 I F 関数を挿入する（関数を使う場合）	34
1-10 I F 関数を挿入する（空欄なら空欄を返す場合）	43
第2章 納品書作成	52
2-1 均等割り付けを設定する.....	54
2-2 新しいシートを追加する.....	57
2-3 関数で今日の日付を挿入する（TODAY 関数）	66
2-4 日付の表示形式を変更する.....	69

【テキストの画面環境】

OS …… Windows 10

ソフト …… Microsoft Excel2013・2016・2019

解像度 …… 主に 1024×768 または 1280×1024 で作成

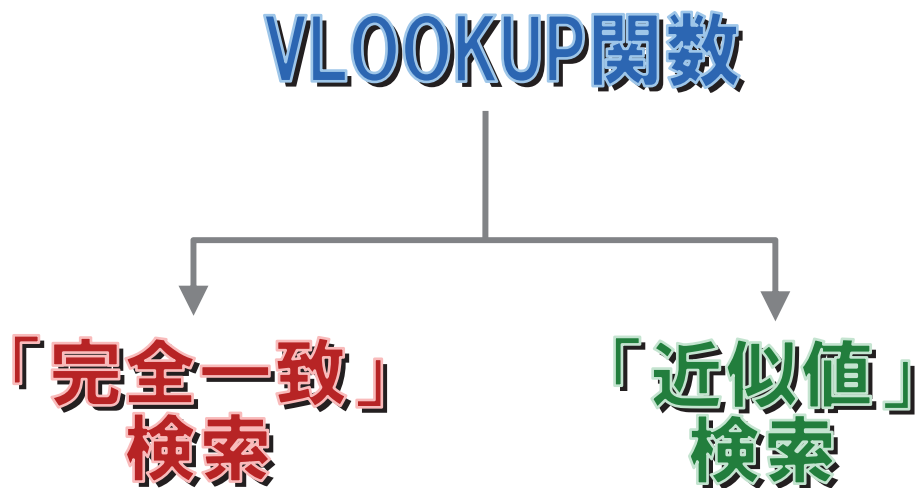
第1章 I F 関数と VLOOKUP 関数

本章では、ビジネスでの実用性が高い IF（イフ）関数と VLOOKUP（ビルックアップ）関数について学びます。

1-1 VLOOKUP 関数の概要

VLOOKUP（ビルックアップ）関数は、参照先の表から該当するデータを検索して表示する関数です。

VLOOKUP 関数の検索方法には、使用する目的によって「**完全一致**」検索と「**近似値**」検索の2つがあり、設定方法も少し異なります。順に見ていきましょう。



VLOOKUP 関数は
目的によって、2種類の
使い方があるんだ。



1-2 VLOOKUP 関数の「完全一致」検索

はじめに「**完全一致**」検索から見ていきます。

まずは、使用例を見てイメージをつかみましょう。

実際の操作は P.6 以降で行っていきますので、ここでは軽く読み進めて、イメージをつかんでいただく程度で結構です。

例：下図の**セルA3**に[品番]（例：103）を入力したら、別シートに作成した表を検索して、[品番]に該当する[商品名]（例：ノート）を元シートの**セルB3**に表示したい。

	A	B	C	D	E
1	文房具注文書				
2	品番	商品名	単価	数量	金額
3	103	ノート			
4					
5					
6					
7					
8					

	A	B	C
1	商品一覧		
2	品番	商品名	単価
3	101	えんぴつ	50
4	102	消しゴム	100
5	103	ノート	200
6	104	定規	150
7	105	下敷き	100
8			

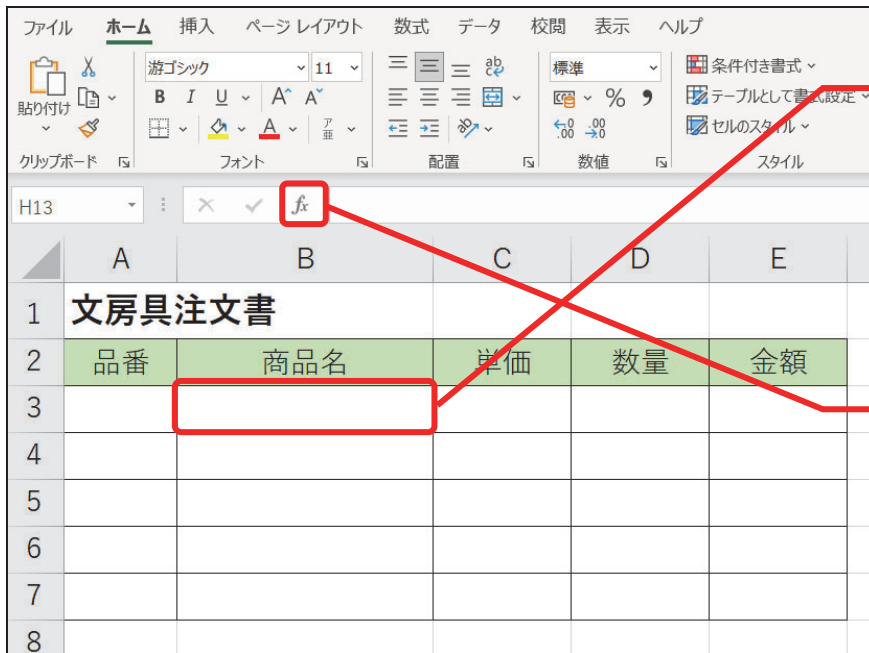
別シートに作成した表→

上記のように、入力した品番などを別表で探して、**完全に一致**した値のデータを取り出すのが「**完全一致**」検索です。


1-3 VLOOKUP 関数を挿入する

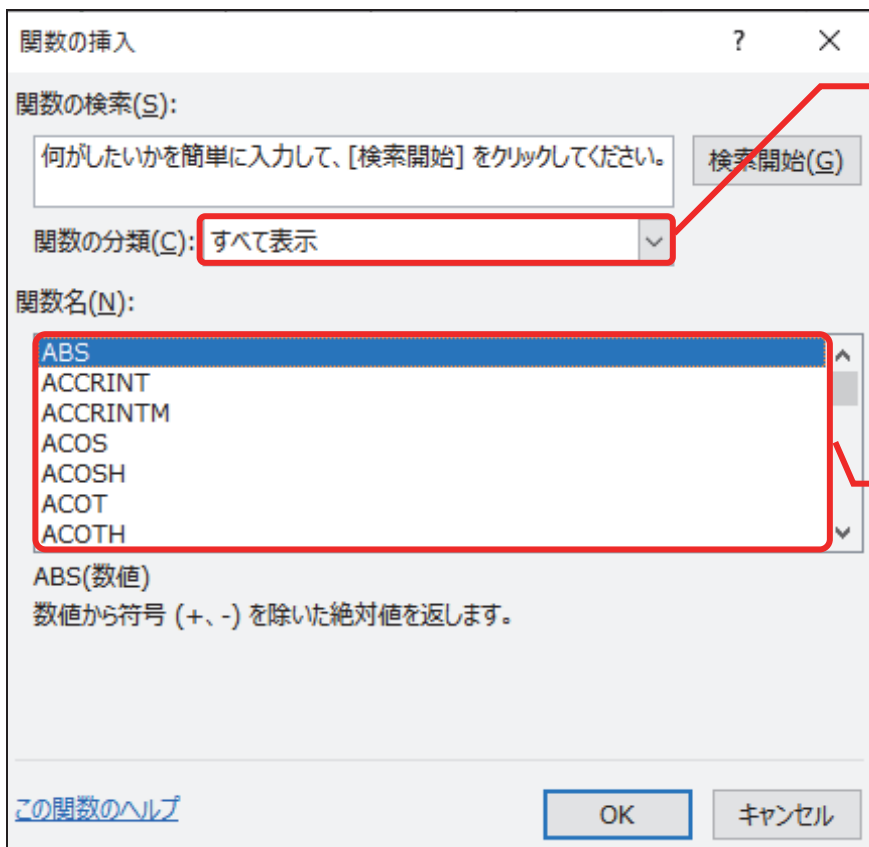
VLOOKUP 関数を挿入します。


品番を入力すると、商品名を表示するように VLOOKUP 関数を挿入してみましょう。



① 関数を挿入するセルを選択します。
例：セル B3

②  [関数の挿入] をクリックします。



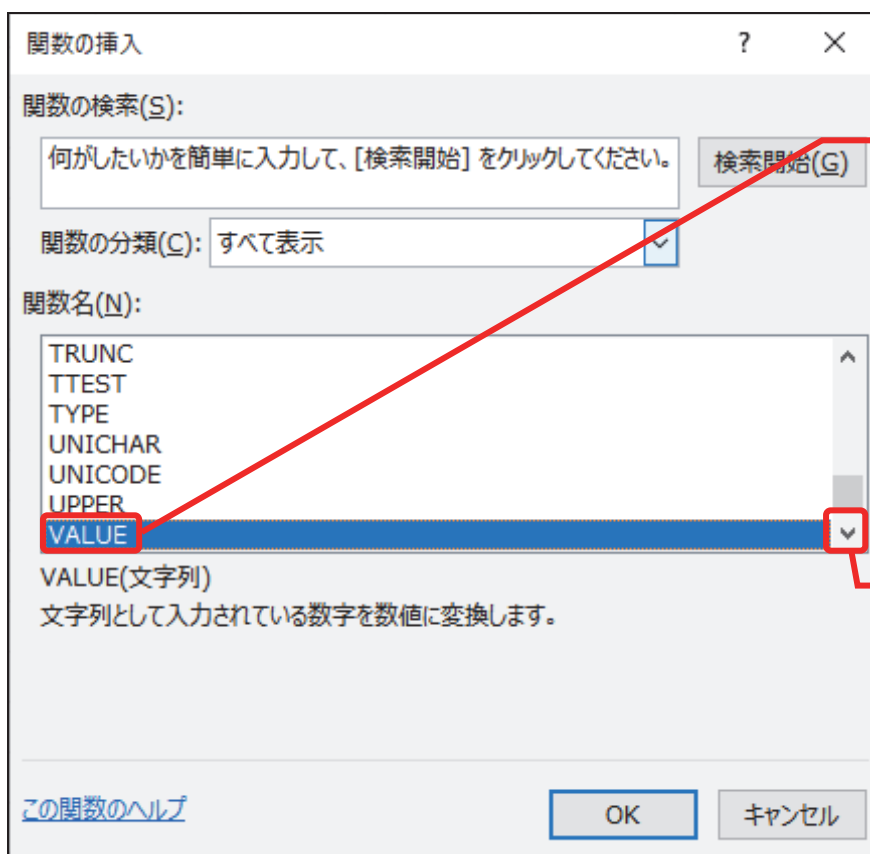
③  をクリックして、[すべて表示] を選択します。

④ [関数名] 欄内をクリックします。



⑤ 挿入する関数の
頭文字のキーを押
します。
例：[V] キー

※ 例の「V」は、
VLOOKUP 関数の
頭文字です。



⑥ 頭文字を押した
キーの先頭の関数
までジャンプしま
す。

⑦ さらにスクロール
して、目的の関数
を探します。

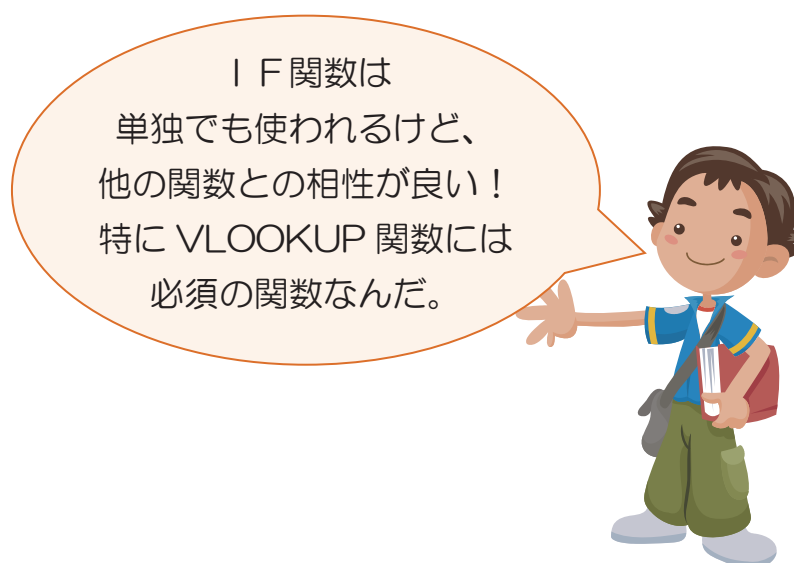
1-6 I F関数の概要

I F（イフ）関数は「作成した条件に当てはまるか、当てはまらないかで結果を分岐させる」関数です。

応用範囲がとても広く、最もよく使われる関数の1つです。

さらに、I F関数の特徴として「よく別の関数と組み合わせて使われる」ことがあります。

特に、先に学んだ VLOOKUP 関数は、I F関数と組み合わせて使う場合がほとんどです。



1-7 I F関数

まず、I F関数の実際の使用例を見て、イメージをつかみましょう。

例：下図でセルB 1 が60以上なら、セルB 3に「合格」、
60未満なら、セルB 3に「不合格」と表示したい。

	A	B	C
1	あなたは	65	点でした。
2			
3	よって	合格	です。
4			

この場合、セル B3 に I F 関数を挿入して、下図のように設定します。

関数の引数

IF

論理式	B1>=60	↑	= TRUE
値が真の場合	"合格"	↑	= "合格"
値が偽の場合	"不合格"	↑	= "不合格"
			= "合格"

論理式の結果 (真または偽) に応じて、指定された値を返します

上記のように、I F関数では「論理式」、「真の場合」、「偽の場合」の3つの欄を設定します。

各欄をさらに詳しく見ていきましょう。

● IF 関数（数式を使う場合）を練習する

- ① 新しいブックの [Sheet1] に、下図のとおり表を作成しましょう。
※文字の大きさや、列幅、セルの色などの書式は任意でかまいません。

	A	B
1	報奨金算定表	
2	売上金額	
3	報奨金	
4		

- ② セル B 3 に、売上金額（セル B2）が 100 万円以上であれば「売上金額×5%」、100 万円未満であれば「売上金額×3%」を表示する IF 関数を挿入しましょう。
※ 演算子や数値は、入力モードを **A** の状態にして入力します。

<ヒント>

論理式	B2>=1000000	↑
値が真の場合	B2*0.05	↑
値が偽の場合	B2*0.03	↑

- ③ セル B2 に次の数字を入力して、セル B3 がどのように変化するか確認しましょう。
入力例：「100」、「999999」、「1000000」

	A	B
1	報奨金算定表	
2	売上金額	999999
3	報奨金	29999.97
4		

※ 列幅が狭いと、セル B3 は「30000」と表示される場合があります。
その場合は、列幅を少し広くしてみましょう。

- ④ 「報奨金算定表」と名前をつけて保存しましょう。

● 次項の準備をする

- ① 前項で作成した報奨金算定表は 1 円未満の端数が出ていました。
端数を切り捨てるように、次項で I F 関数を挿入し直します。
セル B2～B3 を選択した後、削除しましょう。

	A	B
1	報奨金算定表	
2	売上金額	
3	報奨金	
4		

1-9 I F 関数を挿入する（関数を使う場合）

〔真の場合〕、〔偽の場合〕 欄に関数を使う場合の I F 関数の手順です。

前項で作成した算定表に、I F 関数と ROUNDDOWN 関数を組み合わせて、報奨金の千の位未満は切り捨てるように式を作成してみましょう。

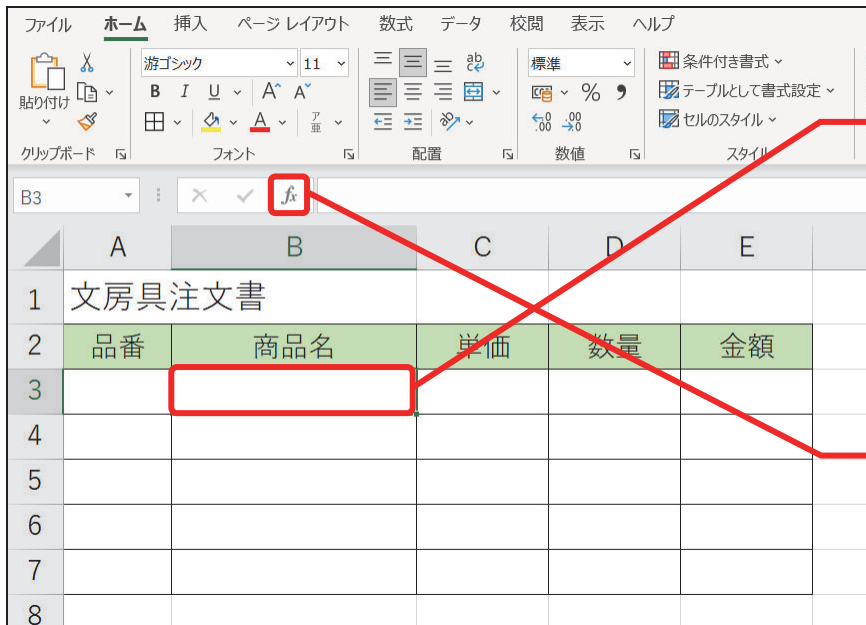
① 関数を挿入するセルを選択します。
例：セル B3

② [関数の挿入] をクリックします。


1-10 / F関数を挿入する（空欄なら空欄を返す場合）

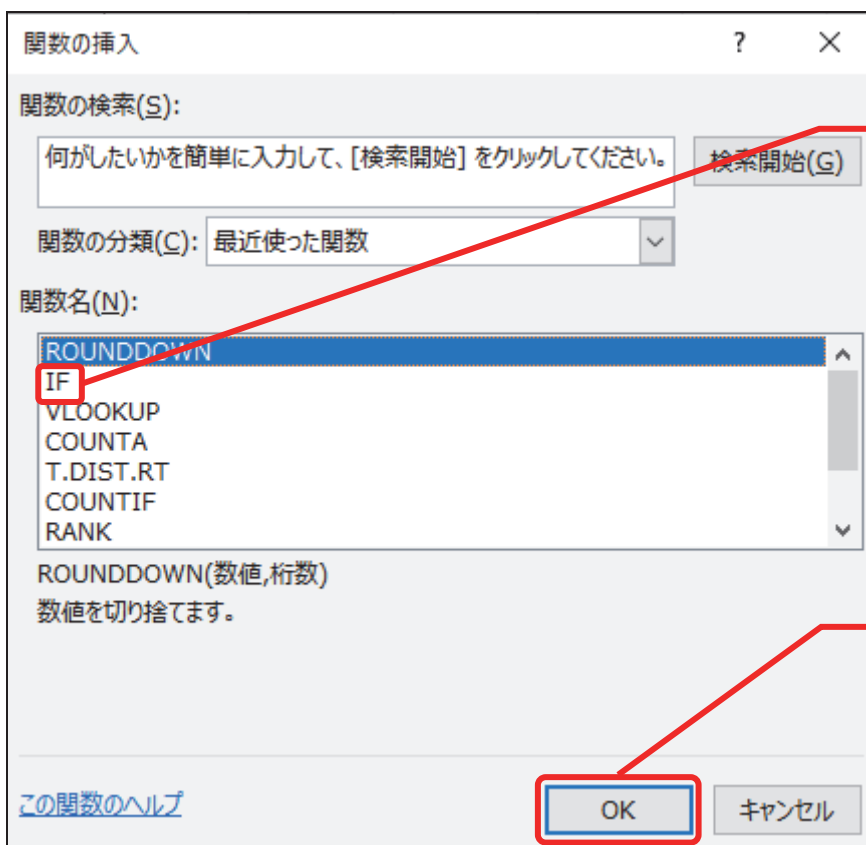
I F関数でよく使われる「空欄なら空欄を返す」場合の手順です。

前項で開いた表の VLOOKUP 関数のエラー値を表示させないように、I F関数を組み合わせて式を作成してみましょう。



① 関数を挿入するセルを選択します。
例：セル B3

②  「関数の挿入」をクリックします。



③ [IF] をクリックします。

④ [OK] をクリックします。

関数の引数

IF

論理式

値が真の場合 = すべて

値が偽の場合 = すべて

論理式の結果 (真または偽) に応じて、指定された値を返します

⑤ 「論理式」 欄にカーソルがあるのを確認します。

A3

X ✓ fx =IF(A3)

	A	B	C	D
1	文房具注文書			
2	品番	商品名	単価	数量
3	<input type="text"/>	=IF(A3)		
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

関数の引数

IF

論理式

値が真の場合 = すべて

値が偽の場合 = すべて

論理式の結果 (真または偽) に応じて、指定された値を返します

論理式 には結果が真または偽になる値、もしくは

⑥ 条件となるセルをクリックします。
例：セル A3

※ 選択したセルが入力されます。

関数の引数

IF

論理式

値が真の場合 = すべて

値が偽の場合 = すべて

論理式の結果 (真または偽) に応じて、指定された値を返します

⑦ 続いて、「=""」と入力します。

※ 「=""」は「空欄」という意味です。
(P.26 参照)

● 納品書の基本形を作成する

① 新しいブックに、下図のとおりに入力しましょう。

※文字の大きさや、列幅、セルの色などの書式は任意でかまいません。

	A	B	C	D	E	F
1						
2						
3		納品書				
4						
5						
6		新井商事	御中			
7				オフィス用品のABC商会		
8				〒451-0000	愛知県名古屋市西区1-2-3	
9					TEL:052-123-4567	
10					FAX:052-123-4568	
11						
12		毎度格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。				
13		下記のとおり御納品申し上げます。				
14						
15		御納品額		¥3,450		
16						
17						
18		コード	品 名	単価	数量	金 額
19		F001	リングファイルA4			
20						
21						
22						
23						
24				合計		
25				値引額		
26				値引後合計		
27						

② 次の空欄のセルに、それぞれ書式を設定しましょう。

- B20～B23…………… 中央揃え
- D19～E23、F19～F26……… 桁区切りスタイル

③ 「納品書」と名前を付けて保存しましょう。

2-1 均等割り付けを設定する

文字列をセル内で均等割り付けにします。
セル B6 を均等割り付けにしてみましょう。

	A	B	C	D	E
1					
2					
3		納品書			
4					
5					
6		新井商事	御中		
7					オフィス用

① 均等割り付けを設定したいセルで右クリックします。
例：セル B6

6	新井商事	削除(D)...
7		数式と値のクリア(N)
8		翻訳
9		クイック分析(Q)
10		フィルター(E)
11		並べ替え(O)
12	毎度格別のお引き立て	テーブルまたは範囲からデータを取得(G)...
13	下記のとおり御納品申	新しいコメント(M)
14		新しいメモ(N)
15	御新	セルの書式設定(E)...
16		ドロップダウン リストから選択(K)...

② 「セルの書式設定」をクリックします。

※ 手順①～②の代わりに、[Ctrl] キーを押しながら [1] キー（テンキーは不可）を押してもできます。

セルの書式設定

表示形式 配置 フォント 罫線 塗りつぶし 保護

分類(C):

標準
数値
通貨
会計
日付

サンプル
新井商事

セルの値に対して一般の書式を適用します (特定の書式を指定しません)。

③ 「配置」をクリックします。

● IF 関数（空欄なら空欄を返す場合）で数式を挿入する

- ① セル F26 に、[合計] から [値引額] を引いた数式を挿入しましょう。
 その際、[合計] が空欄の場合は、[値引後合計] も空欄になるように I F 関数を組み合わせて挿入しましょう。

	D	E	F	G
23				
24	合	計	10,925	
25	値	引 額	300	
26	値	引 後 合 計	10,625	
27				

<ヒント>

論理式	F24=""	↑
値が真の場合	""	↑
値が偽の場合	F24-F25	↑

● 納品書を編集する

- ① セル D15 の文字列を削除しましょう。
- ② セル D15 にセル F26 を参照する数式を入力しましょう。

<ヒント>

D15			
	C	D	E
14			
15	御納品額	¥10,625	
16			

2-3 関数で今日の日付を挿入する (TODAY 関数)

TODAY (トゥデイ) 関数は、ファイルを開いたときの日付を自動で表示します。

TODAY 関数は引数がないため、セルに関数名を直接入力する方法で、TODAY 関数を素早く挿入してみましょう。

	D	E	F
1			
2			
3	納品書		
4			
5			

- ① 関数を挿入するセルをクリックします。
例：セルF1

	D	E	F
1			=today()
2			
3	納品書		
4			
5			
6	御中		

- ② キーボードで「=today()」と入力します。

- ③ [Enter] キーを押して、数式を確定します。

F1			=TODAY()
	D	E	F
1			2021/6/7
2			
3	納品書		
4			
5			
6	御中		

- ④ 関数が挿入され、日付が表示されました。

※ 表示される日付は、テキストと異なります。

やさしく楽しく学ぶ エクセル実務お役立ち編 (1)

発行日 2019年04月03日 第1版

改訂日 2021年06月28日 第2版

編 著 ハッピーテキスト

発行所 ハッピーテキスト

〒492-8253

愛知県稲沢市奥田神ノ木町 21 番地

<https://www.happy-pctext.com>

印刷所 有限会社 テスコ